

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

【令和6年能登半島地震】

令和6年能登半島地震によりお亡くなりになった方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、現地での救援活動に当たる、多くのJA役職員、組合員の皆さまに敬意を表します。

私も組合長時代に熊本地震を経験し、現場の皆さまの抱える不安などがまぶたに浮かび、胸が締め付けられる想いです。昨年6月に農林水産大臣職務官として令和5年奥能登地震の早期営農再開に向けて現地入りした後、このような大震災が発生いたしました。

今回「激甚災害」の指定に加えて、緊急的な物資供給のため約47億円、追加で生活なりわい再建のため1,000億円規模の予備費支出が政府より示されました。まずは人命第一で、引き続き余震や土砂崩れなどの二次災害に注意して頂きたいと思います。そして、現場を知る者として、1日も早い復興・復旧に向け、しかるべきタイミングに、しかるべき支援が講じられるよう、対応して参ります。

【第213回通常国会について】

1月26日に召集される第213回通常国会では、「食料・農業・農村基本法」を含む6本の法案が農水省から提出される見通しです。また、農水省は令和9年度を目標に、全ての補助事業で環境

負荷低減の取組を要件に加える（クロスコンプライアンス）方向であり、今年4月から一部事業でエックシートの提出や取組内容の報告を試行実施する見込みです。食料安全保障の確立とともに、持続可能な食料システム確立に向けた施策も強化されますが、担い手農業者の皆さまに希望を持って営農を継続していただけるよう、中小・家族経営を含む多様な農業の担い手支援に向けて、取組みを加速させてまいります。

さて、1月の台湾総督選挙にはじまり、3月ロシア大統領選挙、7月パリ五輪の開催、11月のアメリカ大統領選など、本年は国際的に様々な変化が想定されます。農業界にとっても、基本法の見直しというターニングポイントを迎える今、永田町でも、政治集団のあるべき姿について改革が進んでいます。

皆さまの信頼を裏切ることのない政治を、引き続き進めてまいります。



▲1月23日JA九青協農業経営対策研修会にて

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

石川県の能登地域の

震災被害地を訪ねました

「多くの崩壊した海岸の家々と漁船、そして道路・農地の修復が大変です」

元日に震度7を記録する令和6年能登半島地震が発生しました。この突然の地震で、家屋も、道路も、田んぼも、大きな被害を受けました。被災されて亡くなられた方に、冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

【富山県の実家も被災しました】

私の実家は、隣接の富山県ですが、能登半島の皆さんとは、緊密な交流があり、幼いころから、母親をはじめ、近所の女衆が田植えや稲刈りに活き活きとして出かけていました。

地震は、まさに、私が数日の休暇で故郷に帰った時の出来事でした。そして私の実家も、庭の灯籠が崩れ、庭石がころがっていましたし、蔵の土台の石が崩れて、ぽかっとな穴が開き、中のタンヌや長持ちが倒れていました。私は上京せざるを得ない日程を抱えていましたので、ともかく、壁の穴から雨が入らないように近所に住む従兄弟にお願いしましたが、それで済むのか心配です。本格的な防水対策が

必要なのかもしれません。改めて、皆さんに心配をかけないよう、手当しなければなりません。

【能登の皆さん頑張りましょう！】

その後、私は、能登半島の入り口の地域のJAを訪問させていただきました。各地で水田の崩れが広がっており、崩壊した漁家も多くあり、多くの被害がうかがえました。早急な復興が進むことを、お願いしてききました。

加賀、能登の地域は、稲作を中心に、大きな生産力を備えた地域であり、我が国の主食たるコメの安定生産と供給の地域です。農林水産業の復旧なくして能登地域の復興はないのであり、農地や農業水利施設、共同利用施設の復旧を急ぎ、少しでも多くの地域で、何とか春の作付けに間に合うことを祈ります。あわせて、JAを中心とする協同の取り組みと、国・政府の取り組みの強化をお願いするところです。頑張りましょう。



▲宮崎農民連盟の皆さんと